

※立ち読みサンプル版です。※
※表紙を除いた2ページ目からご覧いただいております。※

はじめに

このたびは本書をご購入くださいまして、心より感謝申し上げます。

さて、販売ページでもプロフィールを紹介させていただきましたが、ここで改めてごあいさつさせていただきたいと思います。

私は東京・五反田にて「株式会社アクセスマネジメント」という会社を経営しております、中山昌樹（なかやま・まさき）と申します。



「アクセスマネジメント」という言葉には、

「人と物」「人とサービス」あるいは「人と人」が、弊社をアクセス（経由）し、それをマネジメントすることでお客様の“健康”のお手伝いをする

という想いが込められています。

つまり、当社は健康関連の事業を行なっているということです。

しかし、社名を一見するだけではそのことがわかりません。「ビジネスコンサルタンティングの会社？」とよく言われます（笑）。

そこで、事業が明確にわかる名前を、ということで、「千載一遇健康倶楽部」という会員制の通販組織を作り、運営しております。

※立ち読みサンプル版です。※
※表紙を除いた2ページ目からご覧いただいております。※

「千載一遇健康倶楽部」 <http://www.sen-ichi.com/>

ホームページをご覧いただければ一目瞭然なのですが、「千載一遇健康倶楽部」は皆様の健康に役立つ商品（『健康食品群』と『健康快適商品群』など）をお届けするオンライン（インターネット上）の店舗です。

「千載一遇」と名づけているのは、この倶楽部を通じて

「あなた様を健康にする千載一遇の出会いを提供したい」

という想いがあるからです。

他に、当社ではさまざまな健康法に関する情報提供のサイトを運営し、また、治療院・整体院・健康サロン等の集客・収益アップに関するお手伝いもいたしております。

私がこうした事業を行なっている理由。それは、私自身が過去に健康を害し、長い期間闘病生活を余儀なくされた経験があるからです。

私は30代の頃、ある病気を患い、約3ヶ月の間、入院と自宅療養を余儀なくされました。

それまでの私は病気らしい病気一つしたことがなく、正直、自分の身体を過信していました。

ですから、入院だと言われたときのショックは計り知れないものでありました。さらに入院生活も長びき、日に日に不安は募り、気持ちはどんどん落ち込む一方でした。

なによりつらかったのは、働き盛りの真っ只中なのに、ただ病室で退屈な日々を繰り返すしかなかったことです。

夜、入院している病院の窓からはオフィス街や盛り場の街明かりが見えたのですが、私はそれを眺めながら、「世の中の人々が仕事をしたり遊んだりしている

※立ち読みサンプル版です。※
※表紙を除いた2ページ目からご覧いただいております。※

のに、自分は どうしてこんなところにいるのだろう・・・」と、何度塞ぎこんでしまったかわかりません。

その後、なんとか退院することができましたが、このような経験をして、私はしみじみと感じたのです。

“健康” に勝る財産はない。

たとえ経済的に裕福であろうと、また何かの才能があろうと、それらの財産は「健康」という財産がなければ生かすことができないのです。健康こそが人生の源なのです。

それを痛感したからこそ、私はひとりでも多くの方に健康の大切さを伝えたい、そして皆様の健康づくりに奉仕したいと思い、現在の事業を始めたという次第です。

さて、私は仕事柄、健康に関するあらゆる知識を頭に入れておきたいと思い、日々、いろいろな情報に目を通し、セミナーにも積極的に出席しております。

そんなある日、私は「その場で痛みを取る！」という民間療法を拝見する機会がありました。

なんでも、身体のどこの痛みでもわずか5秒で取るらしい。

「そんなバカな！」

さすがの私も最初は疑ってかかっていた。

しかし、私がこの目で見たものは、**五十肩で全く肩が上がらなかった女性が5秒後に肩をグルグル回し、喜びの涙を流す**姿だったのです。

それだけではありません。

杖をついて歩いてきた男性がスイスイ歩き出して杖を忘れて帰ろうとしたり、ひざが悪くて十数年も正座をしていないという女性がその場で正座できるよう

※立ち読みサンプル版です。※
※表紙を除いた2ページ目からご覧いただいております。※

になって感動の涙を流す姿までも目の当たりにしたのです。



「信じられない！」
「ありがとう！」

その言葉と涙に、会場は歓声と拍手に包まれました。

気がつけば、私も思わずもらい泣きしていました。

それくらい、この時の光景はあまりにも衝撃的で、私は今でも鮮明に覚えています。

ちなみに、このセミナーは東京の、とある町内会の主催で地元のボランティア活動の一環として行なわれたものです。ですから参加者の方はみんなご近所の知り合いの方ばかり。なので「サクラ」がないことはすぐわかりました。

私は素直に「これは凄い！」と思い、この療法を当社で取り扱えないものかと、すぐに講師の川村先生（プロフィールは後述）にお願いしました。

その結果、川村先生に快く承諾いただくことができ、以来、多くの方にこの「痛み取り」の技術をお伝えし、

「何をやっても取れなかったコリがウソのように消えました！」
「こんなに簡単に痛みが取れるとは思わなかった！」

All Rights Reserved © 2009-2015 Access Management Co, Ltd.

※立ち読みサンプル版です。※
※表紙を除いた2ページ目からご覧いただいております。※

など、感謝の声をたくさんいただいております。

その声が届くたびに、私はとても幸せな気持ちになります。

そして、今回はあなた様のコリや痛みを取り去りたいと思っています。

つらいコリや痛みを耐えているその表情を、「痛みが取れた！」「楽になった！」という感動の笑顔に変えられますよう、本書を通じてサポートさせていただきますので、最後までよろしくおつきあいください。

もちろん、「痛み」に悩む方はたった一ヶ所が痛いのではなく「あちこちが痛い」という方がほとんどですし、長年「痛み」を抱えてこられた方はそれだけの年季が入っていますので、人によっては身体全体が完全な消痛状態になるまでに時間がかかってしまう場合があることも否定しません。

しかしその場合でも、「痛み」を覚える箇所が少しずつ減っていくのは確かです。なので、「苦痛」が日に日にやわらいでいくのは実感できるはずですよ。

ですから、どうか希望を持って、これから先を読み進めていただけたらと思います。

「痛みが取れた！」「楽になった！」

本書をきっかけに、あなた様にそんな感動の瞬間が訪れることを心から願ってやみません。

中山 昌樹

※立ち読みサンプル版です。※
※表紙を除いた2ページ目からご覧いただいております。※

●監修●

痛み一筋20年！

川村博司(かわむらひろし)先生



<経歴・プロフィール>

長年に渡り、「整体法」「痛み」の研究に従事。

- 1989年 ●影浦街道区医院・南北区中心医院にて人民政府の中国衛生部に立
8月 会い、治療(生命エネルギー調整療法【LHLトリガーポイント療法】)
と指導を行う
- 9月 ●上海市中医医院にて治療(生命エネルギー調整療法【LHLトリガー
ポイント療法】)と指導を行う
- 国際気功科学連合会、第二回国際大会(中国・西安)において日本
代表として、生命エネルギー調整療法【LHLトリガーポイント療法】の
研究と実演を6000名の前で発表する。現在、同会常任理事。

<経歴>

- NPO 法人 全国医学療法師会 理事長
- ハワイ国際大学(米国) 客員教授
- ハワイ国際大学(米国) 健康管理経済学博士
- ウィリアムズバーグ大学 生物物理学博士
- 国際応用心理学研究財団(米国) 理事長
- 日米医学研究財団(米国) 理事
- 復旦大学(中国・上海) 客員講師
- 武漢体育学院大学(中国・武漢) 客員教授
- 広州中医薬大学(中国・広州) 客員教授
- 上海市中医医院・穴位物理療法 顧問
- 国際気功科学連合会(中国・西安) 常任理事
- 全国療術士会、全国療術師認定協会 認定委員
- 政府公認中国職業技能研修センター 副学長

※立ち読みサンプル版です。※
※表紙を除いた2ページ目からご覧いただいております。※

下記は本書を電子書籍（e-book）でも発行している性質上、記載の必要がありませんことをご理解の上ご一読ください。

■著作権について

【あなたのつらい「身体の痛み・コリ」を自宅で、わずか「1回5秒」で取り去る！「5秒で消痛」パーフェクトガイド】(以下、「本書」と表記)は著作権法で保護されている著作物です。本書の使用に際しましては、以下の点にご注意ください。

- 本書の著作権はすべて著者である株式会社アクセスマネジメント代表取締役中山昌樹に属します。(以下「著作権者」という)
- 本書の販売権は株式会社ユートップに属します。(以下「販売権者」という)
- 著作権者・販売権者双方の事前許可を得ずに、本書の一部または全部を、あらゆるデータ蓄積手段(印刷物、ビデオ、テープレコーダー及び電子メディア、インターネット等)により複製および転載することを禁じます。

■使用承諾契約書

この契約は、あなたと著作権者・販売権者との契約です。
パッケージを開封することをもって、あなたはこの契約に同意したことになります。
あなたがこの契約に同意できない場合は、ただちに本書を販売権者までご返品ください。

第1条 目的

この契約書は、本書に含まれる情報を、本契約に基づきあなたが非独占的に使用する権利を許諾するものです。

第2条 一般公開の禁止

本書に含まれる情報は、著作権法によって保護され、また秘匿性の高い内容であることをふまえ、あなたは、その情報を著作権者・販売権者との書面による事前許可を得ずして出版及び電子メディアによる配信等により、一般公開ならびに転売してはならないものとします。

※立ち読みサンプル版です。※
※表紙を除いた2ページ目からご覧いただいております。※

第3条 契約解除

あなたがこの契約に違反した場合、著作権者・販売権者は何の通告もなく、この使用許諾契約を解除することができるものとします。

第4条 損害賠償

あなたが本契約の第2条の規定に違反した場合、あなたは本契約の解除に関わらず、ただちに著作権者・販売権者に対して、違反金として違反件数と販売価格を乗じた価格の10倍の金額を支払うものとします。

第5条 その他

本書の内容を実践した結果につきましてはいかなる場合も責任を負いません。あくまでも自己責任において実行なさるようお願いいたします。

※立ち読みサンプル版です。※
※表紙を除いた2ページ目からご覧いただいております。※

【序章】

「痛みは悪者なんかじゃない！」

あせって痛みを取る前に、まずあなた様に知っておいてほしいことがあります。

それは、「痛みは決して悪者ではない」ということです。

**痛みは本来あなた様を苦しめるものではなく、
あなた様の身体の異常を知らせてくれている、ありがたい警報装置なのです。**

※立ち読みサンプル版です。※
※表紙を除いた2ページ目からご覧いただいております。※

●「痛み」のおかげで人間は生きていられる

「どうしてこんなに痛いんだ・・・」

「毎日毎日痛くて、ストレスがたまってるよ！」

あなた様はそんなふうに思っているのではないのでしょうか。

こんなにも自分を苦しめ続ける、身体の痛み。

だから、「痛み」が憎い。そうってしまうのは当然ですし、そのお気持ちはよくわかります。

しかし、今日からは「痛み」を悪者だとは思わないでほしいのです。

「冗談じゃない！今だって痛くてしょうがないし、毎日つらいんだぞ！
悪者に決まってるじゃないか！」

でも、ちょっと考えてみてください。

たとえば、歯が痛かったとしましょう。

歯が痛いと感じたら、歯医者さんに行きますよね。

そして、歯医者さんに「虫歯がありますね」と言われ、その後、治療を受けて改善する、と。そういう流れになると思います。

この場合、「痛み」のおかげで歯の異常がわかり、それ以上の悪化を防ぐことができたわけです。

これは、肩でも腰でも、身体のどこの痛みにおいても同じです。

**つまり、「痛み」は決して悪者ではなく、
あなた様の身体の異常を知らせてくれる優秀な警報装置なんです。**

※立ち読みサンプル版です。※
※表紙を除いた2ページ目からご覧いただいております。※

もし人間が、自分の身体に異常が起きているのに「痛み」を感じることがない生き物だったらどうでしょうか。

長生きできないどころか、そう遠くないうちに死んでしまうでしょう。そして人類は絶滅してしまうのではないかと思います。

ですから、人間が今生きていられるのは、「痛み」があるおかげだと言っても言い過ぎではありません。

そう考えると、悪者どころか、「痛み」に感謝すべきだと思いませんか。

●とはいえ、不必要に「痛み」に耐え続けるのはおかしい

今のお話に対して、あなた様は

「言ってることはよくわかった。

でも、その痛みが長く続いてつらいんだよ！

感謝とか、そんな悠長なこと言ってる場合じゃないんだ！」

と思われたかもしれませんね。

確かに、あなた様が慢性痛で長年「痛み」に悩まされてきている場合には、何よりもまず

「どうにかしてこの痛みが取れないものか」

「この痛みさえなければどんなに幸せだろう」

ということを願っておられることと思います。

そして、それは理論的にも、ごもつともなことなのです。

さきほどお話ししましたとおり、「痛み」とは身体の異常を知らせる警報装置です。

※立ち読みサンプル版です。※
※表紙を除いた2ページ目からご覧いただいております。※

ですから、身体の異常に気づいたのにまだ痛み続けるというのは、すでに消火活動・救助活動しているにもかかわらず火災警報をジリリリと鳴らし続けているようなもので、迷惑この上ないわけです。

つまり「痛み」も警報装置ですから、その警報は用が済んだら解除すべきなんです。ですから、不必要に「痛み」に耐え続けているというのは実に不自然なことなんです。

そもそも「痛み」を抱えたままだと、その影響で新たな「痛み」が起きてしまうのです。その結果、身体の異常部分が増え、治癒するまでの期間も長くなってしまいます。

あなた様がリハビリを長く続けている状況だとすれば、それはこうした悪循環によるところも大きいのではないかと私は思います。

ですから、その「痛み」を取りながらリハビリしていけば、もっと短期間で治癒させることができ、その分の医療費を浮かせることができるはずなのです。

「そうは言っても、実際にその痛みが消えてくれないから困ってるんだけど。」

ご安心ください。

火災警報のスイッチを切るように、身体の痛みをすぐに取り去る方法がちゃんと存在します。そして、それがこれからあなた様にお教えしていく方法です。

だからこそ、実際に身体の痛みを取る前に、

**「痛み」は決して悪者なんかではなく、
あなた様の身体の異常を知らせてくれる、ありがたい警報装置である。**

ということをしっかり理解しておいていただきたいと思います。

では、次章よりいよいよ「5秒で身体の痛みを取る方法」の本論へ入ってまいります。

※立ち読みサンプル版です。※
※表紙を除いた2ページ目からご覧いただいております。※

立ち読みサンプル版はここまでです。

あなた様のご購入をお待ちしております。

>>[「5秒で消痛」ホームページへ戻る](#)<<